

私は十央麗華  
エロ漫画のアシスタントを  
している

今はとある公衆トイレに  
来ている。

この人が呂色つみき  
私がアシスタントしてる  
エロ漫画家先生

漫画描くために手段を  
問わないヤバい人…。

今日もおっさんに  
シタッチワイフ抱かせて  
の作画してる





うんオッケー！  
我ながら手応えあり！！  
オジサンたちも協力  
ありがとうね！

良いってことよ  
こんなすげえ  
初めてだったぜ

またなんかあれば  
連絡くれよな  
お姉さんやるでも  
構わないぜ？

ムフフ

後日つみき宅

はく：唯一問題なのは  
このダッチワイフの見た目  
よね！

やっぱまだ気にして  
たんですね  
発注ミスしたこと

まーねー  
爆乳過ぎだし  
これのせいで作画  
修正意識しないとだし





あーあーあー

あああー

ギョッ

ジャッ



あれ...??  
先生...??

げ、原稿が...!!  
乾かしたたらまだ  
なんとかなりますかね!?

原稿をダメにした償いとして  
同人本に出てくるキャラと  
同じ姿で売り子をする事になった...

もちろんこは  
裏の即売会だ

限定セットを購入した人に  
私がサーブスしないといけない...  
ううう...なんでこんなこと...

実は私はこうして  
身体を使うアシスタント業が  
ほとんどだ

うう...鼻息が  
乳首にかかっている...



そしてイベントは閉会  
終わりを迎えたと思われたが

あ、まだ帰っちゃだめよー



ドギキーン

え？

ムワア...

実はね、あなたと  
アナルセックスでできる権利を  
くじ引きしてたのよ

このあとその人たちと  
ホテル行くから  
そのつもりで

もちろんバイト代は  
上乘せするから

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ  
アッ

アッ  
アッ  
アッ





